

保育学生による地域子育て支援の取り組み

—2009年度活動報告—

A Community Parenting Support Program by Students in Early Childcare
Practical Training School : A Report of the Activity 2009

幼児教育学科

澤 津 まり子
伊 藤 真
堤 幸 一
立 石 あつ子
笹 倉 千佳弘
乙.山 田 章子
田 中 誠
山 根 薫 子

はじめに

本学幼児教育学科では、2006年度、子育て支援を目的とした学生ボランティア団体G B A (Girls Be Ambitiousの略) を結成し4年目を迎えた。過去3年の取り組みについては、既に報告済みである^{1) 2) 3)}。

昨年の課題は、①「広報活動の強化」として、現在近隣地域に配布しているポスター・チラシに加え、ホームページの充実等による広報活動にも力を入れていくこと、②「地域活性化への貢献」として、「就実やんちゃキッズ」の対象者に高齢者を加え世代間交流の場とし、地域の活性化の一端を担おうとすること、③「学生参加数の拡大促進」として、ボランティア活動参加動機についての研究成果^{4) 5)}を参考にしながら、より多くの学生が本事業へ参加するように働きかけを強化すること、④「事業に関する情報の管理と共有化」として、振り返りの記録や共有の仕組みとして、ネットワークやWEBサイトの活用や学生による情報発信を進めることであった。

本年度は、これらの課題の解決策として、ホームページに活動日程・内容を掲載し、地域の高齢者を交えた世代間交流や1年生の公演見学を実施したり、振り返りシートの導入などに取り組んだ。

本報告は、上記のような課題解決を念頭においてすすめてきた2009年度における地域子育て支援の取り組みの経過および結果をまとめたものである。

1 活動内容

本年度は、学内の施設で実施する「就実やんちゃキッズ」を中心にした活動と、「出前就実やんちゃキッズ」と名付けた学外編を実施した。

1) 「就実やんちゃキッズ ～きてみてあそぼうでえ～」

2008年度に立ち上げた学内施設で実施する「就実やんちゃキッズ ～きてみてあそぼうでえ～」が2年目を迎えた。月1回のペースで第4土曜日の午前中を当て、5月から翌年の2月まで年間8回の活動を行った。公演内容および参加者は、表1のとおりである。

公演内容については、パネルシアター、ペープサート、リズム体操、オペレッタで、幕間を手遊びでつなぐ形式が定着した。公演回数も増えたため、1年生を中心に新作に取り組み、レパートリーを増やした。その際、参加児の年齢が次第に3歳未満児が多くなってきたため、対象年齢に適した内容にすることを心掛けた。内容についても見て楽しむだけでなく、子どもも参加することで一緒に楽しめるようにした。

また、今年初めて本学科の卒業生グループ Tushima-J による公演参加を呼びかけ、7月に実現した。内容は、手袋シアター、劇「赤ずきん」、もったいない音頭であった。手袋シアターは一人舞台で観客の視線を集中させる高度な話術であった。劇「赤ずきん」では魔法使いのおばあさんのリアルな演技力に加えて、客席の中まで入り込んでいく舞台演出も効果的であった。最後のもったいない音頭は、身近な題材をテーマにした子どもにもわかりやすい内容になっており、コミカルな振り付けで参加者と一緒に踊り大いに盛り上がった。こうした卒業生等の発声法、演技力、最小限の大道具・小道具の使い方、公演全体の構成など、学生たちは卒業生等の活動に取り組む真摯な姿勢を間近に見て、大いに刺激を受けることができた。

今年の特徴は交流広場である。昨年「ふれあい広場～おねえさんたちとあそぼう～」を、「交流広場～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～」に拡大して、地域の高齢者に参加を呼びかけ、地域に密着した世代間交流の場としての役割を担っていくことを目的とした。本学施設の広いスペースを活かし、従来より実施している体をおもいっきり動かす運動遊びや、新聞シャワー・折り紙・積み木コーナーの他に、参加した親子が高齢者とも一緒に遊びを楽しむよう、独楽回し・お手玉・あやとりなどの伝承遊びも新たに加えた。高齢者に遊び方を教えてもらいながら、一緒に楽しむ親子と学生の姿が見受けられるようになった。

参加者は次第に定着し、100名～200名程度になっており、近隣地域に浸透つつある様子が見えてくる。

表1 就実やんちゃキッズ活動内容

日 時	公 演 演 目	参加人数	学生数
第1回 5月23日	パネルシアター「どこでねるの」「おもちゃのチャチャチャ」 リズム体操「アンパンマン体操」 オペレッタ「おおかみと七匹の子ヤギ」、幕間に手遊び 交流広場 ～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 57人 子ども 73人	70人
第2回 6月20日	ペープサート「くれよんの木」 リズム体操「楽しいね」「カエルの親子」 オペレッタ「おおきなカブ」、幕間に手遊び 交流広場 ～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 87人 子ども 107人	70人
第3回 7月18日	パネルシアター「おぼけなんてないさ」 リズム体操「トマト」 Tushima-Jによる公演、幕間に手遊び 交流広場 ～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 87人 子ども 95人	40人
第4回 10月31日	ペープサート「秋さがし」 リズム体操「卵かけごはん」 オペレッタ「3匹のこぶた」、幕間に手遊び 交流広場 ～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 43人 子ども 53人	34人
第5回 11月28日	パネルシアター「ヘンゼルとグレーテル」 リズム体操「たまごまごまご」 オペレッタ「ありがとうの大切さー僕らをつなげる、魔法の言葉ー」、 幕間に手遊び 交流広場 ～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 50人 子ども 63人	90人
第6回 12月19日	ペープサート「はじめてのクリスマス」 リズム体操「あわてんぼうのサンタクロース」 オペレッタ「おおかみと七匹の子ヤギ」、幕間に手遊び 交流広場 ～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 32人 子ども 59人	50人
第7回 1月23日	パネルシアター「だれのぼうし」 リズム体操「いちご」 オペレッタ「ありがとうの大切さー僕らをつなげる、魔法の言葉ー」、 幕間に手遊び 交流広場 ～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 77人 子ども 73人	80人
第8回 2月20日	パネルシアター「せつぶんのおに」 リズム体操「ミッキーマウスマーチ」 オペレッタ「おおきなカブ」、幕間に手遊び 交流広場 ～おねえさんやおじいちゃんおばあちゃんと楽しく遊ぼう～	大人 人 子ども 人 未定	90人 の予定

2) 「出前就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」

昨年度までは備前県民局による子育てキャラバン事業として学外公演活動を行っていたが、今年度は本学単独の取り組みとして「出前就実やんちゃキッズ」と称して学外3か所で公演活動を実施した。玉野公演（玉野レクセセンター）、赤磐公演（赤磐市桜が丘いきいき交流センター）、および倉敷公演（イオンモール倉敷）である。公演の基本的構成は、前半45分間の公演（手遊び、パネルシアター、リズム体操、オペレッタ）と後半45分間の参加者との交流である。倉敷公演では、はぐくみ岡山実行委員会主催「おぎゃっと21 in倉敷」に参画し、30分の枠内で公演を実施した。このように学外で公演を行う意義として、先述した学内での就実やんちゃキッズに参加しにくい地域の親子にも子育て支援の輪を拡大すること、大学周辺以外の地域における子育てをめぐる状況に学生の視点を向けさせること、学内とは異なる環境においても子育て支援活動を実施する技能を学生自ら獲得すること、などが挙げられる。

この出前就実やんちゃキッズは学生の長期休暇を利用して開催された。したがって、普段学内公演で行っている演目とは異なる、新たな演目を考案することを課題とした。その結果、オペレッタでは「白雪姫」と「3匹のこぶた」を新たに創作することとなった。学生は既成の台本を基に独自の視点を交えて改作し、子どもの目線に立った演技について検討し、オペレッタとして成立させるための音響や舞台効果について工夫を行った。例えば、登場人物（動物）の性格を表現するためのしぐさや表情について思考錯誤を行ったり、物語の展開や場面の転換を分かりやすくするために大道具・小道具にリアルさを追求したり、オペレッタを立体的なものにするために鍵盤楽器による効果音を適宜創作し加えたりした。このような工夫や努力を積み重ね、事前のリハーサルを経て、一般の参加者の前で公演する水準にまで到達することが可能となった。

出前就実やんちゃキッズの具体的な活動内容を示したものが表2である。出前という形で学外公演を行う際には、各会場によって舞台や音響などの設備がさまざまであり、状況に応じた柔軟な対応が求められる。玉野公演では、舞台や舞台袖のないミーティングルームを会場としたため、パーテーションや暗幕を利用した舞台袖の設営を行う必要があった。学生間で上手と下手の使い分けや、使用可能なマイクの振り分けに混乱が生じたが、開演までの短い準備時間内に最終確認をし、開場時間と同時に笑顔で参加者を迎えることができた。赤磐公演では、舞台、照明、音響等の設備の整ったホールを会場としたので、いつもの学内公演と同様の感覚で実施することができた。学内の体育館よりも規模が小さく、その分参加者との一体感が生まれていたが、さらに舞台の構造をうまく利用した演技構成が望まれる。倉敷公演では、複合商業施設の特設ステージを会場としたため、一連の出前公演の中では最も工夫を要した。ステージ面積が極めて狭く、商業施設の館内放送や一般の買い物客の雑踏が響き渡るという悪条件の中での公演となった。ステージ面積が狭い点に関しては、客席フロアを最大限に活用して立体的な舞台となるように工夫を行った。また、ノイズの多い環境であ

る点に関しては、生の声では参加者に伝わらないため、限られたマイクの数の中で、説明役や主となる登場人物にマイクを使用するなどの工夫を行った。

演目の内容については、パネルシアターとリズム体操は季節感をとり入れることと子どもの年齢を考慮した構成にすることに留意し、従来の演目を再構成して実施した。パネルシアターは動きや物語の展開に変化が乏しく、見ている子どもの注意をひきつける力が弱いことが課題となった。また、リズム体操は動くことが大好きな子どもの特性を生かした内容であり、参加者のノリもよいのだが、幅広い年齢の子ども全てを満足させるような内容を考案することや、初めて体操をする子どもにとって容易に参加できるような説明の方法を工夫することが課題となった。オペレッタは「白雪姫」と「3匹のこぶた」の2演目とも今回が初めての公演となるため、参加者の反応を見ながら更なる改善を要するものの、衣装や背景、大道具、小道具等にリアルさと理解しやすさの双方を反映させ、子どもたちに親しまれている古典的な物語を題材として、見ていて楽しく水準の高い仕上がりであった。

なお、各公演（倉敷公演を除く）の後には学内公演と同様に交流広場が設定され、学生、参加親子、地域の高齢者がふれあい、遊びや話をとおして世代間交流を深めることができた。とりわけ、赤磐公演では子どもと高齢者が一緒に時間を過ごすデイサービスを提供しているNPO法人元気交流クラブ「たけのこの家」にも参画していただき、学生の見識を深め、本事業の輪を広げることができた。

表2 出前就実やんちゃキッズ活動内容

日 時	会 場	公 演 演 目	参加人数	学生数
9月16日	玉野レクセセンター	パネルシアター「おだんごたべたお月さま」 リズム体操「エビカニクス」 オペレッタ「白雪姫」	大人 80名 子ども 234名	39名
9月18日	赤磐市桜が丘いきいき交流センター	パネルシアター「おだんごたべたお月さま」 リズム体操「楽しいね」「かえるの親子」 オペレッタ「3匹のこぶた」	大人 46名 子ども 57名	40名
9月26日	イオンモール倉敷 (おぎゃっとin倉敷)	リズム体操「エビカニクス」「たまごまごまご」 手遊び オペレッタ「白雪姫」	no data (フロア満席)	23名

2. アンケートの結果

1) 保護者へのアンケート結果

以下は、「就実やんちゃキッズーきてみてあそぼうでえー」(2009/5/23、2009/6/20、2009/7/18、2009/9/16、2009/9/18、2009/10/31) で実施した6回分のアンケート

の結果である。昨年(2008年)度(「やんちゃキッズ」3回と「備前地域子育て応援隊」3回で実施、回答数は187)と比較すると、全回答数は310であり、65%増えていた。参加した子どもの人数に基づいたアンケート回答率は77%であった。またアンケート記入者の続柄は、ほとんどが母親(86%)であり、次いで父親(11%)、その他(2%)であった。

(1) 参加した子どもの年齢について

参加した子どもの年齢は、表3のとおりで、1～4歳未満の子どもが3分の2(65%)を占めた。やんちゃキッズの開催対象年齢である就学前年齢、それも幼稚園入園前年齢の子どもが適切に参加していたことがわかった。

表3 参加した子どもの年齢

年 齢	人数	%
1歳未満	53	13
2～3歳未満	111	27
3～4歳未満	102	25
3～4歳未満	73	16
4～5歳未満	28	11
5歳以上	38	15
計	405	100

(2) プログラムについて

①全体の時間

公演および交流広場の合計時間は、「就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」は90分であったが、この時間の長さについて、表4のように、多くの参加者が「ちょうどよい」(85%)と回答した。これは昨年度同様に、プログラムを構成する際、演目の種類、舞台幕間にも手遊びなどを入れる等の工夫をしてきたことによるものと思われる。

表4 全体の時間の印象(保護者)

時間の長さ	人数	%
ちょうどよい	212	85
長い	33	13
短い	6	2
計	251	100

②いちばんよかったと思うプログラム

全6回の公演内容をそれぞれの日内での人気パーセンテージを帯グラフにしたものを、図1、2に示した。

6回の公演ともプログラム構成が異なるので、一概に比べることはできないが、その日のメインとなるプログラムを「いちばんよかった」とする保護者が多かった。また、子どもたちも同様の傾向が見られたが、さらに細

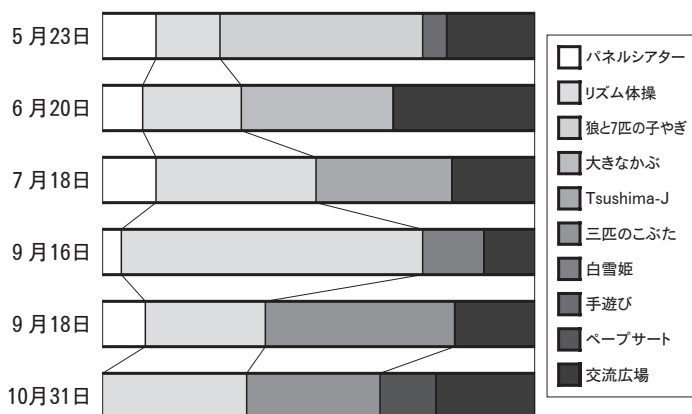


図1 よかったプログラム(保護者)

かく比較すると、「交流広場」を挙げる割合が保護者に比べて多かった。これは演目を観るだけでなく、能動的に、自由に活動を選べる上に、学生たちと直接にふれあって遊ぶことができるためであると思われる。

(3) その他

表5のように、「今回のような企画があれば、また参加したいと思いますか」という問いに対して、ほとんどの参加者が「思う」(86%)と回答した。昨年度のアンケートでは、本活動について「定期的に行って欲しい」というコメントが数多く寄せられたことを受けて、今年度は、ほぼ毎月「就実やんちゃキッズ-きてみてあそぼうでえー」が実施されたが、予想を超える参加者の増加(前年比65%増)やこの「また参加したい」という回答の多さは、地域子育て支援への継続した取り組みとして、本活動がますます期待されていることを示しているものと思われる。

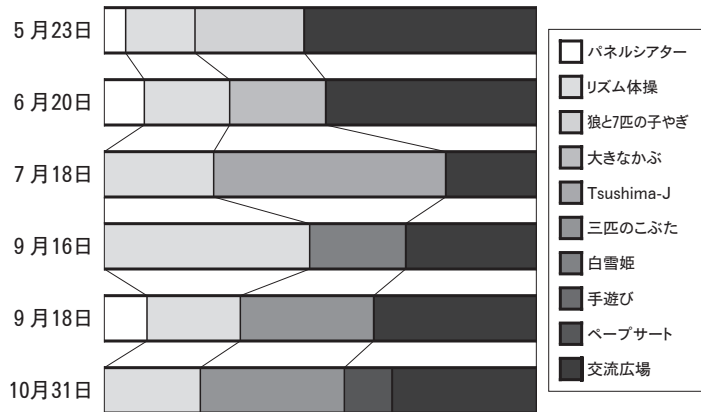


図2 よかったプログラム (子ども)

表5 また参加したいと思いますか?

参加希望の有無	人数	%
参加したいと思う	262	86
参加したいとは思わない	0	0
無回答	43	14
計	305	100

2) 学生の振り返り

昨年度までの反省を活かして、2009年度から、学生の振り返りを支援し活用する方策の一つとして、「振り返りシート」を導入することにした。以下に、出前やんちゃキッズ(2009年9月の3回)に参加した学生(1年生25名)の振り返りシートの結果を図3に示した。また「振り返りシート」は資料2に示した。

シートは20項目の5件法による評定と2項目の自由記述からなっているが、今回は評定項目に関してのみ結果を報告する。図3は各項目のうちの評定点の割合を百分率で表示したもので、全20項目を平均評定点の高い順に並べてある。

(1) 平均評定値：総平均値は3.9で、最高値が「公演課題発見」の4.6で、最低値が「レポートリー」の3.4であった。どちらでもないが3.0であるので、全部の項目に対して、積極的に肯定的評定をしていたといえる。

(2) 因子分析の結果：因子構造の推定を行うために、20評定項目を変数として、主因子法

の因子分析を行い、合計寄与率54%となる、次の3つの因子を得た。以下因子の解釈とそこからみた評価項目間の関係づけを試みる。

①第一因子は、寄与率35%で、「積極的にできた」(.88、以下項目名後の括弧内は因子負荷量)を最高として、「子育て支援への理解が深まった」(.85)、「子どもへの理解が深まった」(.82)、「他人の気持ちを察知できるようになった」(.78)、「自分の役割を果たせた」(.77)、「自信が増した」(.71)、「楽しく参加できた」(.67)、などの項目に高い正の因子負荷があった。従って『全体的成果への評価』の因子と呼べるだろう。

②第2因子は、寄与

率9%で、「レポーターが増えた」(.59)には正の因子負荷が、また「事前準備ができた」(-.55)、「役割を果たせた」(-.45)に対しては、高い負の因子負荷があった。従って『準備などへの反省』の因子と呼べるだろう。

③第3因子は、寄与率10%で、「公演の課題がみつかった」(.65)、「人前で演技が上手になった」(.54)、「意識的に笑顔が出ようになった」(.52)、「創意工夫ができた」(.52)などに高い正の因子負荷があった。従って『公演での成果の評価』の因子と呼べるだろう。

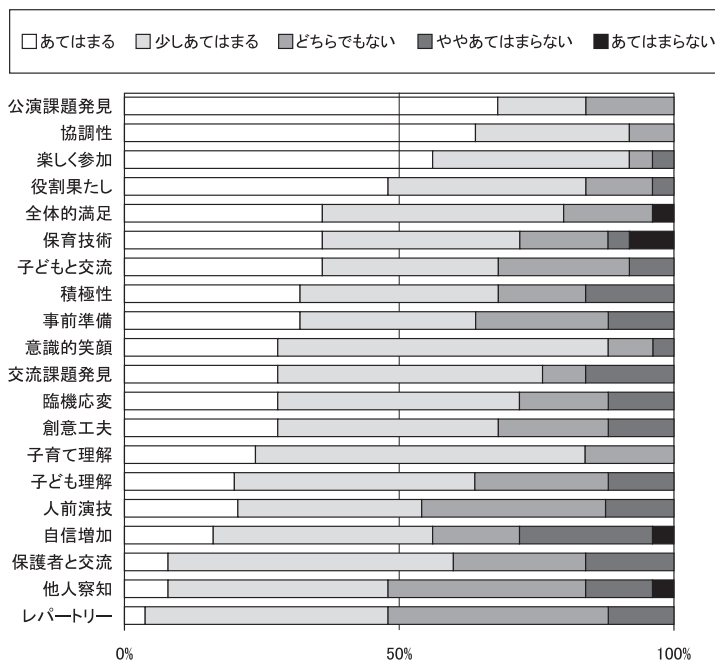


図3 出前やんちゃキッズの振り返り

た」(.65)、「人前で演技が上手になった」(.54)、「意識的に笑顔が出るようになった」(.52)、「創意工夫ができた」(.52)などに高い正の因子負荷があった。従って『公演での成果の評価』の因子と呼べるだろう。

これらの分析結果から、評価項目間の関連性について、次のようなことがわかった。

- a) 「積極的に参加した」と感じている学生ほど、「準備もしっかりできていた」、「役割を果たせた」、「自信が増した」、「楽しく参加できた」と感じており、「子育て支援への理解が深まった」、「子どもへの理解が深まった」と全体的成果を肯定的に感じていた。
- b) 「準備がしっかりできていなかった」と感じた学生ほど、「役割を果たせていなかった」と感じたが、しかし「レポーターが増えた」と感じていた。
- c) 「公演での課題がみつかった」と感じている学生ほど、「人前で演技が上手になっ

た、「意識的に笑顔が出るようになった」、「創意工夫できた」などと、公演での成果を肯定的に感じていた。

まだ導入したばかりの「振り返りシート」による分析であるが、支援する教員側に適切な方針、見通しを与えてくれることがわかった。今後もこの方式を活用して、イベントごとに学生に振り返りを促し、またその結果を次へフィードバックして活かしていくことが、さらに参加学生へ充実した成果をもたらすために必要であろう。



パネルシアター「おだんごたべたお月さま」



リズム体操「かえるの親子」



オペレッタ「三匹のこぶた」



交流広場

おわりに

以上、2009年度の活動を報告してきたが、それらを活動の目標に従って、次のように総括した。

1 広報活動の強化

学生の制作によるポスターや、月ごとの詳細なプログラムを掲載したチラシを近隣地域に配布している。さらに、ホームページを毎月更新することによって、次回の詳細な活動日程・内容を掲載するなど、広報活動の充実にも力を注いだ。

2 地域活性化への貢献

「就実やんちゃキッズ」に高齢者を加え世代間交流の場とし、地域の活性化の一端を担おうと近隣地区の町内会に参加を呼びかけた。また、当日お孫さんに付き添って参加した高齢者もみられた。会場では、親子や学生と高齢者が和やかに談笑したり、伝承遊びを高齢者に遊び方を教えてもらいながら、一緒に楽しむ姿が見られるようになった。

3 学生参加数の拡大促進

ボランティア活動参加動機についての研究成果^{4) 5)}を参考にしながら、入学直後の1年生に対し、2年生がG B Aによる子育て支援活動を説明・実演し、G B Aへの参加を呼びかけた。この時点で約30名(1年生108名在籍)の参加であった。さらに、より多くの学生が本事業へ参加するように働きかけの強化策として、5・6月の活動時に1年生に対して見学および参加体験を実施した。このことによって、学生は子どもや世代間を越えた交流の楽しさを実感したり、自分なりの参加意義を見出すなど、ボランティア活動への主体的な参加が動機づけられたことが窺われる。その後、参加者は40名に拡大した。

4 事業に関する情報の管理と共有化

「就実やんちゃキッズ」の活動は全て記録・DVD化し、学生が視覚による振り返りができるようにした。また、活動後に行う口頭による振り返りと、紙面による振り返り(9月からは振り返りシートの導入)を実施している。保護者アンケートとともに学生全員に回覧し、情報・認識の共有化を図るとともに、次回の計画・実施に活かしている。

さらに、振り返りシートおよび保護者アンケートについては、集計・分析を行い、事業への適切な対応や長期的な展望への指針にしている。また、学生によるネットワークやWEBサイトの活用は、学生間の情報共有と管理の仕組みとして活かしている。

5. 今後の課題

1) 学生の資質向上

公演内容に関しては、最後部まで声が届くようにする、演目の芸術性を高める、大道具・小道具の縮小化を図るなどが挙げられる。

運営能力の向上については、記録・伝達の習慣をつける、相互の綿密な連携を実践していくことなどが挙げられる。

2) 世代間交流の充実

より多くの高齢者参加を促すために、大学近隣の方々に直接チラシを配布し案内するなど、より細やかな広報活動を行う。さらに、世代間交流の枠を広げるために、高校生の参加を呼びかけることも検討している。

3) 学生参加数の拡大促進

学生参加数は、2008年度生33名、2009年度生40名と増加している。さらに働きかけを強化することによって増員を図っていききたい。そのことによって、演目レパートリーを増やし、2グループによるローテーション化を図ることができれば、学生のゆとりのある参加と交流広場の充実につなげることができるであろう。

4) 子育て支援ボランティアの原点に帰って

これまでのG B A勧誘の説明会は活動の内容に偏りがちで、本来の目的である「子育て支援のためのボランティア活動」に対する認識が希薄になっていた。目的意識を明確にし、学生としてできる子育て支援のあり方を原点に立ち帰って考えることが必要であろう。

また、保護者に対しても、学生のボランティア活動であることを認識してもらえような伝え方の工夫が必要であろう。

引用文献

- 1) 村田恵子、澤津まり子、立石あつ子、(2006). 保育学生による地域子育て支援の取り組み－備前地域子育てキャラバン事業報告－ 就実論叢、36 (社会篇)、pp.135-152.
- 2) 澤津まり子、永田彰子、田中誠、立石あつ子、(2007). 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2007年度活動報告－ 就実論叢、37 (社会篇)、pp.81-98.
- 3) 澤津まり子、堤幸一、立石あつ子、伊藤真、笹倉千佳弘、田中誠、永田彰子、山根薫子、Z.山田章子(2008). 保育学生による地域子育て支援の取り組み－2008年度活動報告－ 就実論叢、38 (社会篇)、pp.285-298.
- 4) 堤幸一、村田恵子、立石あつ子、澤津まり子、(2008). 短期大学保育学生におけるボランティア活動の動機分析 (継続動機を中心として)、就実教育実践研究、1、pp.85-94.
- 5) 堤幸一、澤津まり子、立石あつ子、(2009). 短期大学保育学生におけるボランティア活動の動機分析Ⅱ－動機づけ構造と参加決定因を中心として－ 就実教育実践研究、2、pp.55-64.

【資料1】

就実やんちゃキッズ——きてみてあそぼうでえーアンケート2009／GBA

本日は、ご参加いただき本当にありがとうございました。プログラムの内容、その他お気づきの点など、感想、ご意見をいただければ幸いです。

問1 お子様の年齢を教えてください。

1. 1歳未満 2. 1歳～2歳未満 3. 2歳～3歳未満
4. 3歳～4歳未満 5. 4歳～5歳未満 6. 5歳以上

問2 お子様とあなたの続柄を○で囲んでください

1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. その他（ ）

問3 プログラム内容について、以下の質問にお答えください。

①全体の時間（約90分）について

1. 長い 2. ちょうどよい 3. 短い

②保護者の方にお尋ねします。いちばんよかったと思うプログラムはどれでしたか。よかったと思うプログラム名を記入してください。

③どんなところがよかったですか。特に印象に残った点など、お聞かせください。

④お子様のご意見についてお尋ねします。いちばんよかったと思うプログラムはどれでしたか。よかったと思うプログラム名を記入してください。

⑤どんなところがよかったですか。特に気に入ったところ、楽しかったところなど、お聞かせください。

⑥上記以外のプログラムで、もっと工夫したらよいと思う点などがあれば教えてください。

問4 これから、今回のような企画があったら、また参加したいと思いますか。

1. 思う 2. わからない 3. 思わない

問5 今後の要望、その他、なんでも自由にご意見をお聞きかせください。

アンケートへのご協力、ありがとうございました。

【資料2】

GBA振り返りシート

公演日 年 月 日

学籍番号 _____

今日の活動を振り返ってみましょう。回答は、選択肢から当てはまる 数字 を○で囲ってください。

このシートは各自の振り返りの補助として、また保存して後輩やGBA活動の研究のためにも使用するものです。成果を十分に活かすためにも、的確な振り返りを心がけましょう。

1. 公演

- | | | | | | |
|-----------------------|--------------|-----------------|--------------|--------------|------------|
| ①事前準備・練習がよくできた。 | あてはまらない
1 | あまりあてはまらない
2 | どちらでもない
3 | 少しあてはまる
4 | あてはまる
5 |
| ②人前で演技することが上手になった。 | あてはまらない
1 | あまりあてはまらない
2 | どちらでもない
3 | 少しあてはまる
4 | あてはまる
5 |
| ③意識して笑顔ができた。 | あてはまらない
1 | あまりあてはまらない
2 | どちらでもない
3 | 少しあてはまる
4 | あてはまる
5 |
| ④自分の役割がちきんと果たせた。 | あてはまらない
1 | あまりあてはまらない
2 | どちらでもない
3 | 少しあてはまる
4 | あてはまる
5 |
| ⑤新たな課題が見つかった。 | あてはまらない
1 | あまりあてはまらない
2 | どちらでもない
3 | 少しあてはまる
4 | あてはまる
5 |
| ⑥それは何ですか、自由に記述してください。 | | | | | |

2. 交流ひろば

- | | | | | | |
|-----------------------|--------------|-----------------|--------------|--------------|------------|
| ⑦子どもと交流できた。 | あてはまらない
1 | あまりあてはまらない
2 | どちらでもない
3 | 少しあてはまる
4 | あてはまる
5 |
| ⑧保護者・高齢者と交流できた。 | あてはまらない
1 | あまりあてはまらない
2 | どちらでもない
3 | 少しあてはまる
4 | あてはまる
5 |
| ⑨自分も楽しく参加できた。 | あてはまらない
1 | あまりあてはまらない
2 | どちらでもない
3 | 少しあてはまる
4 | あてはまる
5 |
| ⑩新たな課題が見つかった。 | あてはまらない
1 | あまりあてはまらない
2 | どちらでもない
3 | 少しあてはまる
4 | あてはまる
5 |
| ⑪それは何ですか、自由に記述してください。 | | | | | |

3. 全体として

⑫積極的に活動できた。

あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	少しあてはまる	あてはまる
1	2	3	4	5

⑬みんなと協力することができた。

あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	少しあてはまる	あてはまる
1	2	3	4	5

⑭臨機応変に行動することができた。

あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	少しあてはまる	あてはまる
1	2	3	4	5

⑮自分自身で創意工夫した。

あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	少しあてはまる	あてはまる
1	2	3	4	5

⑯それは何ですか、自由に記述してください。

⑰自分に自信がもてるようになった。

あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	少しあてはまる	あてはまる
1	2	3	4	5

⑱子育て支援への理解が深まった。

あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	少しあてはまる	あてはまる
1	2	3	4	5

⑲アルバイトや勉強等と時間の調整ができた。

あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	少しあてはまる	あてはまる
1	2	3	4	5

⑳全体的に今日の活動に満足できた。

あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらでもない	少しあてはまる	あてはまる
1	2	3	4	5

㉑今回のボランティアをふりかえって気づいたことなど自由に書いてください。